

令和2年度 事務事業総点検シート(1)  
[ 令和元年度事務事業 ]

一般会計					事務事業分類	A 一般事務事業
事務事業名	科学教育推進事業				シート番号	038-061
担当部署名	教育委員会事務	局	教育センター	部	能力開発	課 評価責任者(課長名)
						渡邊

Ⅰ. 基本情報

基本情報	1	堺市マスタープランの政策体系に基づく事業の位置付け	政策	3	次代を担う子どもを健やかにはぐくみます	後期実施計画の位置付け
			施策	3	学ぶ力・生きる力の育成	無
	2	事業開始年度	— 年度		終了(予定)年度	— 年度
	3	根拠法令等(法令、条例、規則、要綱等)	教育公務員特例法 地方教育行政の組織及び運営に関する法律 理科教育振興法			
	4	関連計画				
5	事業実施の経緯	学校教育事業としての教員科学教育研修・堺市学校理科展覧会および、市民事業としての科学催事「堺科学教育フェスタ」「堺で科学サカイエンス」「堺サイエンスクラブ」等、学校教育事業・市民事業両分野において、縦につながる教育、横にひろがる教育の視点のもと、科学教育の充実に取り組んでいる。				

Ⅱ. 事業概要

事業概要	6	事業の実施主体(誰が実施しているのか。)	<input type="checkbox"/> 本庁 <input type="checkbox"/> 各区 <input checked="" type="checkbox"/> 出先機関 (教育センター) <input type="checkbox"/> 市外郭団体 <input type="checkbox"/> 地域団体・市民 <input type="checkbox"/> 民間企業・NPO <input type="checkbox"/> その他 ( )			
	7	事業の対象(誰を、何を対象としているのか)	教員 児童・生徒 市民			
	8	事業の目的(どのような状況にしたいのか)	・教員の理科指導力の向上 ・児童生徒の理科に対する関心意欲の向上 ・市民の科学に対する意識の向上			
	9	事業内容(スケジュール、実施方法・手段、事業ボリュームなど)	・教員研修 教材研修会、理科主任研修、理科授業づくり研修、スキルアップ研修等の集合研修に加え、学校からの要請に基づき、学校へ指導主事派遣し、校内研修を実施する。 ・堺市学校理科展覧会の開催 児童生徒及び教職員の理科研究を奨励し、研究交流の場として、研究物並びに製作物の展示・発表を行う。 ・小学校理科特別授業実施事業 関係団体の専門家を講師に招聘し、技術の実用事例を基にした内容で小学校理科特別授業を実施する。 ・科学催事「堺科学教育フェスタ」「堺で科学サカイエンス」の開催 ・堺サイエンスクラブ 小学校6年生を対象に、大阪府立大学の「未来の博士育成ラボ」と連携した継続的な研究活動を通して、観察実験の技能・科学的思考力・プレゼン能力等の向上を図り、将来科学分野で活躍する人材を育成する。			
10	直接実施以外の主な支出先	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> その他 ( ) 委託業者、地方独立行政法人 大阪市博物館機構				

Ⅲ. 投入量

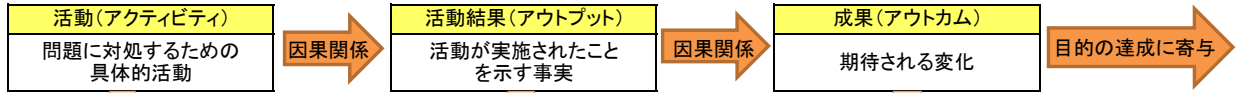
項目	単位	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度
		予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算
11 事業費 (a)	千円	11,036	10,621	12,938	10,310	10,516	9,889	10,203
主な事業費内訳								
報酬	千円	4,618	4,651	4,635	4,667	4,623	4,644	4,681
委託料	千円	4,100	3,864	4,100	3,690	3,957	3,505	3,700
需用費	千円	1,173	1,148	1,070	1,019	1,014	853	1,014
その他	千円	1,145	958	3,133	934	922	887	808
財源内訳								
国・府支出金	千円							
受益者負担金(使用料、手数料等)	千円							
市債	千円							
その他(子ども教育ゆめ基金繰入金 諸収入)	千円	4,446	4,098	4,458	4,020	4,377	3,876	4,080
一般財源	千円	6,590	6,523	8,480	6,290	6,139	6,013	6,123
12 人件費 (b)	千円	30,050	30,050	29,070	29,070	28,800	28,800	29,700
13 総コスト(c)=(a)+(b)	千円	41,086	40,671	42,008	39,380	39,316	38,689	39,903

# 令和2年度 事務事業総点検シート(2)

事務事業名	科学教育推進事業	シート番号	038-061
-------	----------	-------	---------

## Ⅳ. 評価(測定・分析)》

### ロジックモデルの考え方



【達成率に基づいた評価基準】

評価	達成率
大変良い	120%以上
良い	100%以上120%未満
普通	80%以上100%未満
少し悪い	60%以上80%未満
悪い	60%未満

[14] 令和元年度実績の欄に定性的・定量的情報も含め、活動・結果・成果について具体的に記載

[15] または[16] に定量的な指標、または定性的な目標を記載

### 事業の活動実績や成果

令和元年度実績									
活動実績と成果	14	<p>・教員研修 教材研修会は授業の3週間前、理科主任研修は5月、理科授業づくり研修は夏休み、スキルアップ研修は中学校のテスト期間でクラブ活動のないとき等、参加する教員の時期的利便性を鑑みて開催した。また、学校からの要請に基づき、学校へ指導主事派遣し、校内研修を実施した。その結果、学校閉庁日導入や授業日数の増加にも関わらず前年度に比べて教員研修参加者数がほぼ減少しなかった。</p> <p>・堺市学校理科展覧会の開催 児童生徒及び教職員の理科研究を奨励し、研究交流の場として、研究物並びに製作物の展示・発表を行った。優秀賞を大阪府学生科学賞に出品、小学校、中学校とも大阪府知事賞を受賞した。中学生の作品は日本学生科学賞で入選2等となった。長年続けてきた中で、子どもたちが科学に関心を持つようになってきていることが窺われる。</p> <p>・小学校理科特別授業実施事業 関係団体の専門家を講師に招聘し、技術の実用事例を基にした内容で小学校理科特別授業を実施した。参加申込み学校数が多く、どれも抽選となった。</p> <p>・科学催事「堺科学教育フェスタ」「堺で科学サカイエンス」を事前申込制で開催した。申込者数はどちらも定員の約3倍であった。</p> <p>・堺サイエンスクラブ 小学校6年生を対象に、大阪府立大学の「未来の博士育成ラボ」と連携した継続的な研究活動を通して、観察実験の技能・科学的思考力・プレゼン能力等の向上を図り、将来科学分野で活躍する人材を育成した。参加者23名中10名が大阪府立大学の「未来の博士育成ラボ」に進んだ。</p>							
		指標名【活動指標】		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
		15	学びの診断「理科の授業の内容がよくわかる(よくある・ときどきある)」と答えた児童・生徒の割合(小3～中2の平均)	%	目標値	80	80	80	100
					実績値	81	81	84	
					達成率	101%	101%	105%	
					評価	良い	良い	良い	
		算出方法・設定根拠など		(小学校3～6年の平均+中学校1,2年の平均) × 1/2					
		指標名【成果指標】		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
		16	科学催事の応募人数(堺科学教育フェスタ・サカイエンス)	人	目標値	2,160	2,760	2,780	1,400
					実績値	6,091	6,769	6,723	
					達成率	282%	245%	242%	
					評価	大変良い	大変良い	大変良い	
		算出方法・設定根拠など		安全面を考慮して往復はがきによる事前申込とし、目標値は会場に応じ設定。令和2年度の目標はコロナ感染防止対策による一部事業の中止を考慮し設定					

### 事業の効率性

区分		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度
17	① 教員研修の実施回数	回	155	152	134
	② 上記①にかかる年間経費	千円	15,877	15,820	15,504
	③ 単位当たり経費(②÷①×1,000円)	円/単位	102,432	104,079	115,702
	備考(算出についての説明等)				
区分		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度
18	① 科学催事の当選人数(堺科学教育フェスタ・サカイエンス)	人	2,160	2,760	2,780
	② 上記①にかかる年間経費	千円	13,164	13,050	12,775
	③ 単位当たり経費(②÷①×1,000円)	円/単位	6,094	4,728	4,595
	備考(算出についての説明等)				

### 業績の分析

19	目標を達成できた、または達成できなかった要因や効率性についての分析(その他、関連情報に基づいた分析)
	<p>教材研修会は授業の概ね3週間前に行い、参加した教員が単元を通して予備実験、授業の見直し、板書、ノート作成などを実習できるようにした。また、中学校教員対象の研修では、大学教員を講師に招聘し、教科書だけでなく、最新の科学に触れる機会を設けた。そのことが肯定的および今後も参加したいとの事後アンケート結果につながったと考えられる。</p> <p>大阪府学生科学賞での小学校・中学校の知事賞受賞、中学校の日本学生科学賞入選2等は理科展を71回と続けてきた結果、教員だけでなく保護者や児童生徒まで理科に対する興味関心や意識が涵養された成果であると考えられる。</p> <p>科学催事では、昨年度から事前申込制にしたことにより、安全に余裕をもって体験できるようになったことが大きな要因であると考えられる。また、アンケート項目「来年度も参加したいですか」に対する肯定的回答については、科学教育フェスタでは95%、サカイエンスでは97%の子どもたちが、「来年度も参加したい」と回答している。さらに事前申込者数が定員の約3倍であることからニーズの高さを感じ取ることができる。以上のことから、これらの事業の有効性は著しく高いと推察できる。</p>

#### 【分析のチェックポイント】

- 事業の達成度はどうでしたか。
- 5W2Hを踏まえて、実施過程に問題はありませんでしたか。
- 資源投入は適切でしたか。
- 事前想定できない外的要因の影響はありませんでしたか。
- 有効性は高いですか。低いですか。
- 効率性は向上していますか。
- RPA等をはじめとするICTを活用する余地はありませんでしたか。
- ターゲットに応じた最適媒体の選定など、戦略的な広報ができていましたか。

